

「復興のためだ」と
さんざん
口説かれたねえ

さ さ き せい ち
佐々木 清一

前双葉町議会議長

昭和23年(1948)、双葉町生まれ。

25歳で会社を立ち上げ、震災まで建築業に携わる。1999年4月、町議会議員に初当選。2011年3月12日、東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発発災後は、町民とともに避難先を転々とする。2011年11月、町議会議長に就任。

以来9年間務め、2021年2月2日に退任。

全町避難から10年、正直言ってここまでられるとは思ってなかった。

「常磐線が全線開通」とか聞くと、「よくぞここまで」と、涙が出そうになることも。でも、一度常磐道の常磐双葉インターを下りてみてください。ずーっと続いています、黒い袋が山積みになった仮置場が。自宅にも国の許可なしには入れない。

こんな悔しいことがありますか？中間貯蔵の話が持ち上がったとき、俺も町長も国や県から「復興のためだ」とさんざん口説かれ、苦しかったですよ。だって、中間貯蔵施設予定地の地主さんにしてみれば、先祖代々暮らしている場所なんだから。

以前はあちこちで見られた黒い袋がなくなってきたのは、大熊双葉が中間貯蔵を受け入れたから。「お金がはいったべ」と言う人もいますが全額じゃない。

残りは県に入って県全体に使われています。そういうことをもっとみんなに知ってもらいたいよ。双葉町は国や県にちゃんと協力してきました。

それなのに、10年経っても、町民は帰還できないまま。

原発は国策。町民が戻るとか戻らないとか関係なく、国には双葉町を元に戻す責任があると思います。今でも双葉町は復興半ば。

私自身も地元双葉町の復興のために貢献していきたいと思っています。



重機が除去土壌の入った袋を積み上げていくのは、かつて田んぼや畑だった場所。町の至るところで見かける風景